

# 黒毛和種肥育牛へ飼料用米を40%代替給与しても 良好な枝肉が生産できる

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

部門名 畜産－肉用牛－畜産栄養

担当者 渡邊鋼一・内田守譜・石川雄治・矢内伸佳・古閑文哉・佐藤亮一

## I 新技術の解説

### 1 要旨

飼料自給率の向上と水田の有効活用を図るため、黒毛和種肥育経営において配合飼料の40%を飼料用米で代替給与しても、良好な枝肉が生産できる。

#### (1) 圧ペん粒米給与

生後15ヶ月齢から肥育終了までの期間において、給与飼料のTDN比40%(重量比で43.4%)を圧ペん粒米で代替給与した結果、肥育後期の飼料摂取量が低下したが、体重及び枝肉成績に差はなかった(図1、表1)。

#### (2) 圧ペん玄米給与

生後12ヶ月齢(肥育用飼料給与開始時)から肥育終了まで、給与飼料のTDN比40%(重量比で39.4%)を圧ペん玄米で代替給与した結果、18ヶ月齢以降に飼料摂取量が減少したが、枝肉成績に差は見られなかった(図2、表1)。

(3) 飼料費は、圧ペん粒米(加工費等込み)は45.2円/kg、圧ペん玄米は48.4円/kgであり、配合飼料の全国平均価格と比較すると飼料用米を代替給与することにより、飼料費を低減できた(表2)。

### 2 期待される効果

- (1) 肥育農家の飼養コストを軽減することができる。
- (2) 飼料用米の給与水準を明らかにすることで、飼料用米の利用が進む。

### 3 適用範囲

肉用牛肥育農家

### 4 普及上の留意点

- (1) 飼料用米は品質劣化を避けるため、圧ペん加工後においては、速やかに利用するのが望ましい。
- (2) 飼料用米を代替給与する場合は、肥育中期から肥育後期にかけて飼料摂取量が低下することがあるため、残飼量を確認しながら適量を給与する必要がある。

## II 具体的データ等

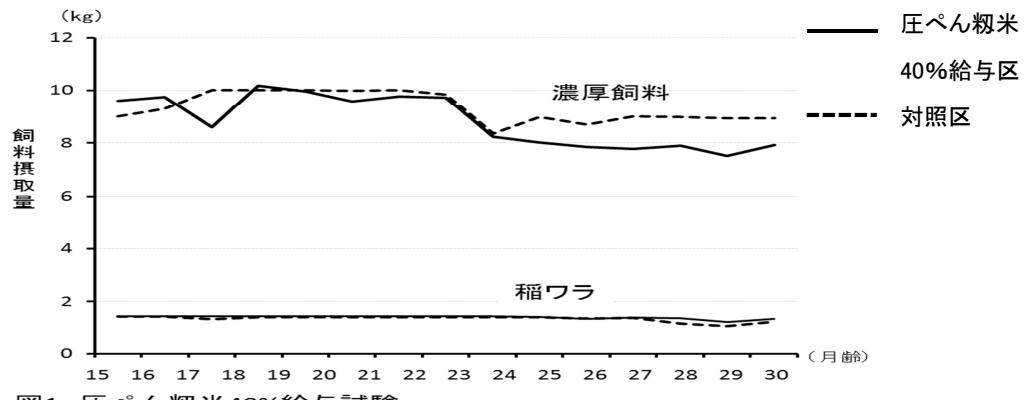


図1 圧ペん粉米40%給与試験

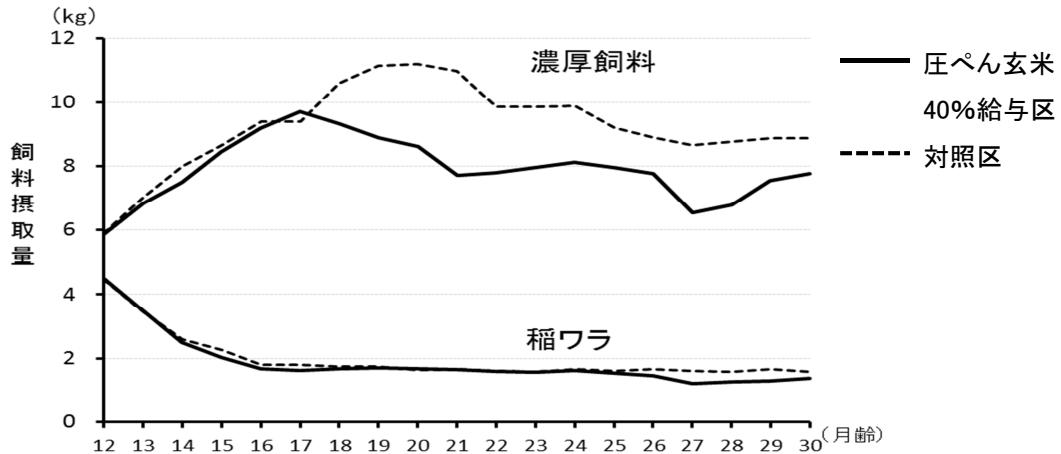


図2 圧ペん玄米40%給与試験

表1 枝肉成績

区	頭数 (頭)	出荷月齢 (月)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラの厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値 (%)	脂肪交雫 (BMS No.)
圧ペん粉米40%区	4	31.6 ± 0.7	477.0 ± 51.5	52.0 ± 5.8	8.4 ± 0.6	2.5 ± 0.3	73.5 ± 0.9	7.0 ± 0.7
対照区	4	31.4 ± 1.3	486.0 ± 16.5	54.8 ± 6.3	8.1 ± 0.5	2.2 ± 0.1	73.9 ± 1.0	7.0 ± 1.0
圧ペん玄米40%区	4	30.8 ± 0.9	491.3 ± 47.0	55.0 ± 5.8	8.1 ± 0.5	2.4 ± 0.8	73.7 ± 1.0	7.3 ± 1.1
対照区	3	30.9 ± 0.4	509.0 ± 31.4	59.0 ± 6.5	8.2 ± 0.6	2.6 ± 0.5	73.9 ± 0.7	8.0 ± 0.8

注1 平均値±標準偏差

表2 飼料費の比較

kg単価(税込)	
配合飼料費(全国)※	62.4円
粉米費(加工費、袋代込)	45.2円
玄米費(加工費、袋代込)	48.4円

※農林水産省 流通飼料価格等実態調査(平成26年4月～10月より引用)

## III その他

### 1 執筆者

渡邊鋼一

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成22年度～26年度

(2) 研究課題名 飼料用米等水田を活用した肉用牛の飼養管理技術の開発(肉用牛肥育専門経営における飼料米の給与技術の開発)

### 3 主な参考文献・資料

なし